

平成28年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）

ブータン王国における漆工芸 技術向上のための研修事業



福井県

1. 事業実施に係る経緯

福井県は、ブータン王国と幸福度研究や大学生など若者の交流など独自の交流を続けてきた。平成 25 年 12 月には、ブータン王国に知事が訪問し、同国の産業や教育等を視察し、今後のさらなる相互交流を確認した。

また、平成 27 年 3 月には、ブータン王国のワンチュク経済大臣（当時）が来県し、本県の伝統工芸である越前漆器の現場を視察された。その後の知事との会談において、越前漆器を学ぶための研修生の派遣について、双方で合意がはかられた。

さらに、平成 27 年 11 月には、本県職員がブータンを訪問し、伝統工芸研修生の派遣について経済省の担当者と派遣の期間や内容、ブータン側のニーズ等について協議を行った。

2. 事業の目的

ブータンでは、漆を塗った杯や椀を懐に入れて持ち歩くなど、普段の生活に漆器が浸透していたが、1999 年にテレビおよびインターネットが解禁され、海外からの文化が入ってくると、国民の生活にも急激な変化が起き、日常的に漆器を使用する機会が大きく減少するなど若い世代の漆器離れが進んでいる。同国が国家目標として重視するGNH（国民総幸福）にも、「文化の保護と振興」は盛り込まれており、その意味においても、漆工芸の継承・振興が重要視されている。

また、海外からの観光客が増加しつつあるブータンでは、外貨を獲得し、国民の所得向上を図るため、観光客の土産物として漆工芸品の購入が促進されるよう、観光客の興味をひくデザイン性のある漆工芸品の開発や販売が課題となっている。

本県の「越前漆器」は、約 1500 年の歴史を有する伝統工芸であり、国民のライフスタイルの変化など市場のニーズに的確に対応し、現在では、全国の業務用漆器（外食産業用）8割以上を生産する産地に成長している。また、今では食器だけでなく装飾品としての用途も広がってきている。

ブータン王国における漆器の主産地は、タシ・ヤンツェという東部の農村地域に位置し、政府の伝統工芸学校であるタシ・ヤンツェ伝統技芸院があるほか、30軒あまりの漆器職人がそれぞれの家で漆器製造を行っている。ブータン王国から漆に携わる人を研修生として本県の漆器産地に受け入れ、漆工芸の技術向上やブータンにおける新しい生活に応じた漆器や外国人旅行者向けの漆工芸品の開発能力の向上を図る研修を実施することにより、同国における漆工芸の継承および振興に貢献する。



(株式会社西遊旅行ホームページより)

3. 事業内容

(1) 事業概要

ア 研修期間 平成28年9月13日(火)～12月22日(木) (約3か月間半)

イ 研修生 ブータン王国 タシ・ヤンツェ伝統技芸院 講師(男性1名)

ブータン王国 漆器職人(女性1名)

ウ 指導者 越前漆器職人 4名

指導者	工程	研修期間
伝統工芸士	木地	4週間
伝統工芸士	下地塗り	4週間
	上塗り	4週間 ※研修場所の都合により、2名の職人のところに研修生1名ずつに分かれて実施
漆器製造一級技能士	上塗り	
伝統工芸士	加飾	3週間

エ 研修場所 各指導職人の工房

オ 研修内容

越前漆器の製造に関する一通りの技術を身に付けてもらうため、木地、下地、上塗り、加飾の4つの工程を順番に研修した。最初の木地づくりで作成した器を、順に次の工程の研修に使用しながら、最終的にすべての工程を通した成果品を作成できる内容とした。

(2) 主な実施内容

ア 越前漆器の製造技術研修

(技術研修日程)

期間	実施内容
9月13日(火)	(来日)
9月15日(木)～10月7日(金)	木地工程の指導
10月10日(月)～11月4日(金)	下地塗りの指導
11月7日(月)～12月2日(金)	上塗りの指導
12月5日(月)～12月20日(火)	加飾(蒔絵)の指導
12月20日(火)	成果報告会
12月22日(木)	(帰国)

※研修は平日のみ実施、土日祝日は休み

(一日の主なスケジュール)

時間	内容
9:00～12:00	技術指導
12:00～13:30	昼食
13:30～16:00	技術指導(自習の日もあり)
16:00～18:00	日本語指導(週3～4回)

◆木地

- ・日本の一般的なお椀とブータンのポップと呼ばれる器の2種類を作成
- ・電動ろくろの使い方指導
- ・道具の作り方指導（鋼製カンナ、小刀、ゲージ）
- ・ゲージ（長さを測る道具）を使用して、同じ大きさの器を作る訓練



電動ろくろとカンナで木を削る

◆下地塗り

- ・木地を補強するため、下地を塗る工程を指導
- ・下地用漆を塗り、乾燥後にサンドペーパーで研ぐ作業を実習
- ・ブータンでサンドペーパーとして使用している木の葉との比較
- ・下地用漆を塗るためのへらの削り方、ヒノキ材からの作り方を指導
- ・欠けた器の補修方法を指導



へらの作り方、使い方を指導

◆上塗り

- ・上塗り用漆の微細なごみを取り除く漉し方を実習
- ・上塗り用の刷毛の使い方、手入れの仕方を実習
- ・ほこりが出ないように、ナイロン製の服が適していることを説明
- ・塗り終わった器を乾燥させる漆風呂の仕組み、乾燥条件を説明



職人と並んで塗り方を実習

◆加飾（蒔絵）

- ・上塗りが終わった器に、絵付けをする蒔絵の工程を指導
- ・日本風の絵柄と、研修生が描いたブータンの図柄を使用
- ・トレーシングペーパーを使用して、図柄を写し取る方法を実習
- ・絵筆の使い方を実習
- ・仕上げに、磨き粉を使用して、つやを出す方法を実習



写し取った絵柄に沿って絵付けする

◆成果報告会

- ・滞在中にお世話になった関係者が集まり、研修生からパワーポイントを使い、実習した内容や各工程のポイントを説明
- ・研修で作成した成果品の漆器を展示



成果品を前にしての発表会

イ 滞在中のイベント等

日時	実施内容	場所
9月14日(水)	知事表敬	県庁
	歓迎会	うるしの里会館
9月16日(金)	漆かき指導	漆樹園地(鯖江市内)
9月17日(土)	河和田山車・漆器まつりへの参加	うるしの里会館
9月27日(火)	漆の精製(手ぐろめ)指導	職人の工房
11月4日(金)	デザイン研修、木の鉛筆づくり体験	山口工芸(Hacoa)
11月15日(火)～ 12月10日(土)	国際漆芸展示会へブータンの漆器を 出品	うるしの里会館
11月24日(木)	河和田雑学塾に講師出演	河和田コミュニティセンター
11月26日(土)	伝統的工芸品月間国民会議全国大会 の視察	サンドーム福井
12月19日(月)	鯖江市長表敬	鯖江市役所
12月20日(火)	送別会	うるしの里会館
12月21日(水)	副知事表敬	県庁

※ その他、県立恐竜博物館、県立若狭歴史博物館、永平寺、東尋坊、松島水族館、越前竹人形の里、たけふ菊人形、京都観光、日本料理教室、養浩館庭園、ブータンミュージアム、福井県立音楽堂(オーケストラの鑑賞)、越前和紙の里、越前陶芸まつり、劔神社、西山公園(動物園)、などを訪問した。



知事を表敬訪問



地元のまつりに参加し、山車を曳く



雑学塾でブータンの生活等を紹介



漆を採る方法を実習



木の鉛筆づくりを体験



伝統工芸の全国大会を視察

4. 事業の成果

研修では、越前漆器の4つの工程（木地、下地塗り、上塗り、加飾）を実習した。木地については、日本の木を削るカンナは鋼製であり、ブータンの鉄製とは違い硬く、作業効率が非常に良いことが分かった。また、ゲージを使って同じサイズ、同じ厚さで削るという、ブータンにはない概念を学んだ。電動ろくろはブータンですでに普及しているため、鋼製のカンナとゲージがあれば、すぐに技術を役立てることができる。カンナについては鋼の棒ならば比較的安価に入手できる可能性がある。

ブータンでは主に拭き漆という透明な漆を塗るため、下地塗りという工程は全く初めてであった。写真のような顔料で色を付けた漆を塗るためには必要な工程であり、ブータンでも是非取り入れたいと話していた。加飾については、磨き粉を用いて光沢を出す方法が印象的だったようで、道具、材料などを何度も確認していた。



木を削るカンナ（硬さが重要）



ブータンにはない下地塗り工程



研修生が選んだ色の顔料を混ぜた漆で上塗り

滞在中は、地元の祭りへの参加や、講座への出演など、地元住民との交流も積極的に行った。11月には、伝統的工芸品月間国民会議全国大会が福井県で開催され、日本の伝統工芸に幅広く触れる機会となった。また、日本文化や歴史に触れる機会も積極的に設け、越前竹人形の里では、ブータンにも竹があるため、なじみ深く、職人が作る繊細な竹細工に驚いていた。若狭歴史博物館では、鳥浜貝塚から出土した世界最古とされる漆塗りの櫛や千年以上前の仏像などが展示されており、ブータンにはこれほど長い歴史が伝わっていないことと比較しながら鑑賞していた。

研修生は、帰国後すぐに派遣元のブータン王国経済省に研修報告を行った。また、JICAブータン事務所の手配で、現地の新聞社（Kuensel）の取材を受け、2016年12月24日付けで掲載された。記事の見出しには、「Fukui helps to promote Shazo」と記され、福井がブータンの漆器（Shazo）を支援したことが明確に分かる内容であった。クエンセルはウェブ上にも記事を掲載しており、ブータン王国と福井県のつながりがより広く伝えられる機会となった。



ブータンの新聞（Kuensel）に掲載

5. 今後の展望

今回派遣された2人の研修生のうち、男性はブータン王国の伝統工芸学校の講師で、常時7～8名の生徒に漆器製造を教えており、ブータンの漆器製造における中心的な立場にいる。もう一人の女性は、その学校を卒業し、現在は15名ほどの職人グループに属して漆器製造を行う職人である。そのため、研修生の帰国後に、生徒や職人たちにすみやかに技術を伝えることが期待される。

日本で学んだ技術をブータンで活用するためには、道具と原料の調達方法が課題である。日本で使用した道具と原料の一部は、サンプルとしてブータン政府に提供したが、今後必要になる物品はブータン側に負担してもらうか、現地で似たような材料や素材を見つけてもらう必要がある。

福井県としては、ブータン王国に技術が定着するよう、継続的に支援を続けていく。来年度は、越前漆器の職人をブータンに派遣し、研修成果の確認や新たな課題への対応を実施する計画をしている。将来的には、福井県の越前漆器の技術を取り入れながら、ブータンオリジナルの新たなデザインの漆器製造にも取り組んでもらい、用途や販売先を拡大することにより、ブータンの漆器製造が継続的に発展していくことを期待する。

6. 他の自治体の参考になると思われる点

外国人の3か月を超える滞在の場合は、在留資格を取得する必要があるため、行政書士と相談しながら来日までに余裕を持って申請書類等の準備を行った。

在留資格を取得すると国民健康保険にも加入することになるが、別途、外国人研修生総合保険にも加入することで、研修生および受入れ側にとって、安心して研修に臨むことができた。

滞在中は、職員が毎日付き添うことは困難なため、研修生本人が持参したスマートフォンを使用し、Wi-Fi通信により研修生と担当職員が直接やりとりできる手段を確保した。特に、メール（SNSを含む）は、英語でも気軽に状況を確認し合うことができ、要望や連絡事項をお互いに伝えやすかった。